

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「第3回信州バザール」普及推進事業
事業主体 (連絡先)	一般社団法人信州木造住宅協会 代表理事 小林 政幸 松本市今井野尻 5031 0263-50-3950
事業区分	主：(ウ)森林づくりと林業の振興、 関連：(オ)その他地域の特色、個性を活かした産業振興、雇用拡大に資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	5,137,710 円 (うち支援金：2,995,000 円)

事業内容

地元工務店が力を合わせ、年に1度のバザール(市場)を開催し、木造住宅の普及推進と共に関連企業、団体、地元企業ブースによって地元の消費者とつながる場を創造し、魅力ある商材や技術を消費者にPRする場を提供。我々建築業界だけではなく、地域で活動されている様々な企業・団体と業界の垣根を越え、力を合わせて地元力を発信する継続イベントとして、地域産業のより一層の振興を図った。

開催日：平成30年10月20日(土)～21日(日)

開催場所：信州スカイパーク「やまびこドーム」

来場者：一般県民 4,400人(1日目 1,500人・2日目 2,900人)



【終了後記念撮影】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 民間主導による県の取組みを含んだ新規事業の創出を狙い、大工技能コンテストを行い、熟練職人及び学生が参加。
- ② 地域活性化を狙い、63ブース(企業24・飲食物販8・クラフト31)が参加。
- ③ 各種県産材PRおよび地域産業PRを行った。
- ④ 将来の雇用を見据えた若年層への業界PRとして、各種体験イベントを実施し、木に触れ、加工する楽しさを伝えた。
- ⑤ 県産材を住宅に活用して頂く為、管柱およびリフォーム資材プレゼント企画を行い、多くの応募があった。

- ①大工職のPRと職人のモチベーションアップに繋がった。
- ②県内産業との連携・交流を行い、横方向での民間協業によるブランドの創出を行った
- ③県が進める県産材振興の一翼を担い存分にPRした。
- ④多くの人数が集まり大盛況だった
- ⑤プレゼント企画に17組の応募があり、住宅建設に関わる打ち合わせ進行中。

※自己評価【B】

【理由】業界全体のPRに大きく寄与したが、出展社減少など次回につながる反省点が残ったため。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

支援金による助成を受けて3年目となり、自立したイベントとするべくイベント内容にも若年層に向けた体験イベントを多く配置し集客に努めた。県事業PRなどの取り組みが多いため、長野県、関連団体、関連企業との連携をより一層幅広く連携していく。具体的には他団体にも参画して頂き、より深みを持たせた企画運営を行って、数ある事業効果を更に積極的に高めていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある